

# 清風会報

No. 68

## 巻頭言

### 美照望海

清風会 副会長 大島 敏夫

早いもので、退職してから十年が過ぎました。古希を迎え、健康第一を常に考えて生活しています。

現在は、週に四日の卓球、月に二度のそば打ち、月に一度のゴルフ、その間に約二十種類の野菜づくり、地域活動、旅行を楽しんでいます。

今、振り返ってみると多くの方々との出会いがあり、その中で自分は成長できたのだなとしみじみ思い、感謝の気持ちでいっぱいです。その出会いの中で、今でも長く続いていく、私が永久幹事を務めている会を紹介し

ます。

その会の名は「美照望海」です。この会は、昭和六十二年の文部省の教員短期海外派遣埼玉一一

一団の名称です。会員は団長以下、添乗員を含めて二十八名です。この会は添乗員も会員となつて

いるのが一つの特徴です。イタリア・西ドイツの教育事情を視察してきました。「美照望」というのは、イタリアの訪問地ピテルボを漢字に充てたものです。また、「海」は、あえて会としないで海外を志向するということが「海」としました。

十六日間、ヨーロッパ

の「石の文化」に接し、「学校経営のあり方」、「日本の教育との違い」等を視察する中で、何よりもチームワークを大切に

にし、絆を一層深めることができました。そんな団員同士のつながりだったので、帰国後の報告会で、年に二回の懇親会を

やろうということになりました。一月には、さいたま市、六月には秩父で宿泊して懇親を深めてきました。秩父では、結団式をした「ヘリテイジ美の山」で行ってきました。

三年前の一月には六十回目を開催しました。また、このほかにもシンガポール・台湾・香港・オーストラリア・ハワイへ。

八年前には、二十五周年記念として、当時の訪問地ピテルボを訪れ、懐しさに浸ると共に新たな感動を覚えました。

三年前の秋には、三十周年を記念して、伊香保

に一泊旅行に行きました。それ以降、秩父での開催をやめ、関東近県の一泊旅行に切り替え、二年前は熱海、去年は鴨川に行つて来ました。

私たちの会のもう一つの特徴は、会員の家族も参加できることです。今までも多くの家族の方が参加し、今でも家族同様のお付き合いをしています。

しかし、会にも悩みがあります。三十三年が経過し、会員が高齢化してきたことです。すでに三人が物故会員となりました。体調を崩し、参加し

たくてもできない方が出てきました。やむを得ない事ですが残念です。こうしていつまでも旧交を温めることができるのも永久幹事冥利につきます。これからも健康に留意し、ずつとずつと続けていきたいと願っています。

## 会務報告

幹事 鈴木秀太郎

### ◇主な行事

- 。4月12日 第一回理事会
- 。5月8日 広報委員会
- 。5月14日 定期総会
- 。5月30日 新入会員歓迎会
- 。6月28日 旅行委員会
- 。7月8日 広報委員会
- 。8月6日 第二回理事会
- 。9月2日 旅行委員会
- 。10月8日 親睦研修旅行
- 。10月17日 「彩の国教育の日」協賛 現職・退職校長
- 。10月29日 秩父地区教育推進協議会
- 。10月29日 県理事会
- 。11月25日 広報委員会
- 。1月24日 広報委員会
- 。1月25日 班編成検討委員会

### ◇祝叙勲(二月一日現在)

- 。2月7日 広報委員会
- 高橋 照 設楽富士雄
- 山下 一彦 豊田房太郎
- 浦島 明久 横川 知慈
- 宮本 功

### ◇ご逝去

- 高橋 保 田地野武司
- 新井 輝男 村越 久雄



叙勲に寄せて

木村 義衛

五月六日小鹿野町長森真太郎様、同月七日秩父市長久喜邦康様より叙勲の祝電を頂きました。大変栄誉なことであり果して自分に栄ある叙勲の資格があるのかと反省しきりでした。

七月二十三日秩父市教育委員会の方が勲章、勲賞状、受章者のしおりを届けに来訪されました。慎んで有難く拝授致しました。省りみますと、上司の皆様のご指導と先輩諸兄の温かい仲間意識の

お蔭で児童と精一杯取り組むことが出来ました。

長い教員生活の中で、一番手応えのあった研修は、国立教育会館筑波分館の一ヶ月の研修でした。全国各地から数百名が参加、同宿して一室数名各地域からの集まりです。一日の活動時間に余裕があり、ゆつくり時間が流れます。現場での活動に追われた一日がウソの様に感じられました。談話室では、自校の良い点、問題点などが話題になり、地域性もあり、日本全国にある島のくらしと教育環境など問題は多々あります。このおしゃべりの

の時間は有意義でした。

勤務校が変わり、横瀬小学校の教頭に着任してまもなく海外事情研修でヨーロッパ三国ドイツ・イタリア・フランスを訪問しました。日本人通訳が案内も勤め、役所や学校を訪問しました。退職して二十五年経過しました。

教え子の息子がアメリカやイギリスで銀行や商社に勤めている時代になりました。賀状にも息子のいるフランスで遊んで来たなど数件ありました。時代は目まぐるしく変わっていきます。

叙勲に寄せて

設楽 富士雄

このたび、誠に光栄なことですが、「瑞寶双光章」をいただきました。

なぜ私かと思ひ調べてみたところ、「公共的な職務を果たし、多年の公労を・・・」ということが書かれていたのを見つけた。その時、「ああ、教職人生を全うしたからいただけたのか」と、素直に感じ、喜べたのを覚えていきます。

定年退職をして、早二十八年が経過しました。私は昭和六年生まれです

ので、八十八歳になりました。丁度今年は米寿と重なり、子供たちや孫たちに囲まれて、お祝をしてもらいました。この歳まで生きていられる幸せを、日々感じて生活しております。思い起こせば慌ただしい教職人生でした。私は中学校の社会科の教員でしたが、部活動(卓球)も自分が好きだったため、力を入れて指導したことが、人生の中でも達成感のあった思い出となつていきます。今でも、皆野中時代の教え子たちが何かと関わってくれ、その時代を思い起こさせる一助ともなつていきます。退職後は、皆野町公民館にも勤めさせていただき、後には、現役時代からお世話になつた皆野町卓球連盟のこと、自宅の畑や庭木の手入れ等、現在に至るまで悠々自適な生活を送つて来ました。高齢になつてしまい、

何かと不自由な面もありますが、体自体はまだまだ健康だと思つています。いただいた叙勲に恥じぬよう、様々なことに感謝しながら、自分の人生を全うしたいと考えます。

### 叙勲に寄せて

中 紀雄

令和元年春五月二十八日、図らずとも瑞寶双光章の伝達を受け、令和天皇に拝謁を賜り、受章の感激と勲章の重さを実感しました。偏に、今日まで支えてくださった多くの方々のご指導とお力添えの賜と厚く御礼申し上げます。

特に気忙しい日々の中で、この度の受章は、教員・校長・教育長等の折々の年月でのやり遂げた経緯と数多くの皆様との出会いを想いだし、私の今後の人生に一步踏み出す

勇氣と自分を発見する機会となりました。その上、心の中で御礼と感謝を吐きました。しかし、真つ先にお礼と感謝を伝えたくてもできない恩師がいることに口惜しさと悲しみに浸りざるを負えないものでした。そこで、この受章の機会があることで、学生時代に人生の師となる弓道師範や秩父での学ぶ機会をくださった秩父市教育長様の墓前に報告できたことは、私にとつてせめてもの慰めになりました。

更に若き日の学びを導いてくださった埼玉大や文書館等の先生方のおかげで、今、秩父の郷土歴史研究に少しながらも着手しつつあります。これからの人生の礎となっております。

終わりに、これまでの私の人生は「家族・友人・同僚・地域の皆さん」に支えられました。特に、

通勤、毎朝五時、帰り十一時の送り迎え、健康に配慮した食事等、妻には苦勞を掛けました。「ありがとう」。是より、「日々喜びと感謝を忘れず」自分らしく頑張りたいと思います。

### 叙勲に寄せて

浦島 明久

この度、令和元年秋の叙勲に際しまして、はからずも瑞寶双光章の榮に浴しました。

天皇陛下のお代替わりに伴う諸儀式の關係で、叙勲の日程は例年の十一月と異なり組まれました。それにより、去る十二月十三日国立劇場にて文部科学大臣より勲記勲章の伝達を受け、引き続き皇居に参内し、豊明殿にて天皇陛下に拝謁の榮譽とともに、お言葉を賜り、感激の極みでした。

思い起こせば、昭和四十七年四月から平成二十二年三月まで夢中で過ごした教員生活でした。

今回の受章は、偏にこの間に皆様からいただいた心温かいご指導とご支援のおかげとあらためて感謝申し上げます。

今後は健康に一層の留意をし、些かなりともご芳情に報いたいと考えております。

さて、新しい令和の年も二年を数え、ふた月を迎えようとしています。年号で話題になった万葉集の中で、私の好きな歌人大伴家持の作品に「あたらしき年の始の初春の今日降る雪のいや重け吉事」（万葉集：巻二十）があります。「新しい年、春のはじめでもある今日、降り積もる清らかな雪のように、この後良いことが重なるように」と解されます。

古代の庶民らの思いが

込められた万葉集を後世に残した家持に思いを致すとき、大きな自然災害の続発、凶悪な事件の発生など心暗くなるが多かつた旧年が明けて、今年こそ明るく希望もてるよい年になることを祈つてやみません。



# 健康で活動出来る ことに感謝

町田 尚

過日は喜寿のお祝いを頂き有難うございました。退職後早くも十七年が経過とうとしています。今振り返ってみるとそれも瞬く間に過ぎてしまった感があります。その間は主に趣味の書道を継続(教職の時期を含め五十年位)また十年間位は地域に役立つことをと、思い区長・人権擁護委員などを経験。さらに筋トレを兼ねて野菜づくりなど畑仕事や草刈り、家・庭周辺の花木の剪定などやっています。

# 喜寿を迎えて

今、世の中は外国がらみの複雑な経済状況、より便利な情報社会、AI(人

工知能)の活用など急速に変化する中、芸術文化の活動には厳しい面があるようです。「書」に関しては先ずそこに携わる、特に若い人が少なくなっていることです。

現在私は、主に県内に於いて埼玉県美術家協会(参与)・埼玉県書道人連盟(顧問)・県北美術家協会(副会長)・県北書道連盟(会長)・秩父書道会(会長)などの団体で皆さんにご指導頂きながら、また協力度体制の基で活動しています。

「書」の研修として、中央・県内の展覧会作品制作を年間十数点などですが、いろいろと学ぶ内容は無限のようです。今後は可能な範囲での取組が課題です。また芸術文化の振興に微力ながら協力をと思ひながら...

その様なことで、ある程度頭の運動をしながら、時にびっしり汗をかき、

時に筋肉痛になりながらの毎日です。幸い今のところ健康で活動出来、家族や周りの皆さんのお陰で感謝です。

# 「半生の回想」

久保 朝一

御世三代を生きて喜寿になる。大海で遊泳した経験が町会に捧げており先々に大仕事がある。

人生の半分を教職が占めた。存分に仕事ができ、それは高潔で多種多才な師匠に出会い教育職員の心技体の基礎基本の薫陶を受けた。

同時に職務を通じた自己研修に没頭した。教諭とは・教務主任とは・教頭とは・校長とは。それぞれの職務は何か。何をしなければ成らないのかをである。

具体的には、児童の教育をつかさどるとは。校長を助け校務を整理する

とは。校務をつかさどり所属職員を監督するとは。意味では

- ・ 助けるとは
- ・ 校務及び整理とは
- ・ つかさどるとは
- ・ 監督とは
- ・ 職務専念義務とは

の理解と習熟に努めた。なぜなら日常の職務の執行を左右するからである。公立小中学校は児童生徒の人格形成に寄与する機関である。目的達成は至上命題である。そのため法令等が教職員を拘束する。

よく「学校が家庭的で良かった」と聞くが本末転倒である。学校は組織体である。組織は管理職等が法令諸規則等により運営する。

よって、管理職は学校教育に関わる決まりや規則には厳然でならねばならない。特に授業に関わる事は厳格に規定されている。児童生徒の人格形

成は授業を通してなされるからである。教育に携わる者は用語を理解し職務に反映するを『今でも』強く思う。

# 喜寿を迎えて

三上 重樹

喜寿を迎えた。多くの人たちからお祝いの言葉をお聞きいただき、実感が湧いてきたというのが本音である。

父親が七十二才で黄泉の国へ旅立って行ったので、自分はよく生きても七十五・六才まで生きられれば御の字と思ひ、今日まで気儘な生活をしてきた。人生八十年どころか百年の時代がきたと新聞、テレビで報道されている。

そこで、これからは神様から授かった残りの人生を、ひとまず傘寿を目指して、現在行っている活動に楽しく元気に取り組んでいこうと決意を新たにしたい。

また、将来家族や親戚に迷惑をかけず自力で生活できるようにウォーキング、筋トレ、脳の活性化に一段と努めねばならない。さらに、母ちゃんにも協力し、出番があったときは炊事、掃除、洗濯などを気軽に引き受け楽しく明るく我が道を歩んでいきたい。

「周囲の方が『これはよくないよ。』『やつても時間の無駄だよ。』と言つても、自分にとつて『これはとても心が落ち着く。』『もつとやつてみたい。』と感じたのであれば、これからも続けていけばいいのだ。周囲の意見に流されることなく正しく判断できる力を持つこと、物事の真実を見極める目を養うことが必要なかもしれない。』と諭された建長寺の御坊のお言葉を肝に銘じ、一日一日を軽度のボケと戦いながら過ごしていこうと思うこの頃だ。

## まだ七十七歳

持田 嘉男

一般には喜寿といわれる年になりましたが、私はまだの気持ちで頑張っています。

今年、喜寿祝ということで中学校の同窓会（大黒会）には、恩師の先生二名（小学校の女の先生・中学校の男の先生）において頂き、昔の話に花が咲きました。それから高校の同窓会（燦々会）には、百十三名の参加があり、賑やかな会となりました。その後、高校の時の仲間「喜寿の作品展」を最初で最後の作品展として開きました。実行委員六名で話し合いをして、一人三点ぐらいを目指して作品の募集を行いました。その結果絵画・書道・写真・陶芸・絵手紙・人形・てん刻・ガラス細工等たくさん集まりました。

会場は、市内の上町ギャラリーをお借りして、展覧会をすることにしました。作品展には、二十五名の方々に出品して頂き、三日間に二百五十名以上の參觀者がありました。

出品者のなかには、二名の方が遺作品を出品してくれたり、病弱の方・遠方で行けないけど展示してと言つて、郵送や宅急便で届けてくれる仲間もいました。又、參觀者の方からもよくこんなたくさんさんの作品が出品され、一堂にいろいろな作品が見られてよかったです。好評をいただきました。

最初は、できるかなと心配もありましたが、仲間の温かい応援のおかげで、無事に終了することができて本当によかったです。と思っています。また、実行委員の一人が、写真を入れた「作品展のしおり」を作ってくれて、思い出に残りました。

## こんな人生数直線

堀口 政昭

御祝をありがとうございます。昔の写真を傍らに鏡台を覗くと、別人が居るのかと複雑な思いもするこの頃です。私の人生数直線。三十歳までの養成期。教えを受けつつ、力をつけて頂く期間です。六十歳までの確立期。自立して生活し、社会貢献に努め、精一杯生き抜く時です。九十歳（仮定の区切りですが）までの安定期。諸事に捉われず自分主体にゆつたりと、「生」を満喫する時期と。こんな計画でやってきました。本来第三段階は、これまでの恩返しで、世間への奉仕が筋かもしれませんが。我儘、自分勝手と誇りを受けても、どうしても私でなければならぬこと以外は、すべてお断りしてきました。

できることは、第二段階でやり尽したと自負し、独断と偏見かもしれない自己満足で、自分を進めしてきました。第三段階での願ひ事は、釣りや化石採集等、多々ありました。が、そうそううまくいかないのが人生です。老いの事は漠然とは思つていても、あまり意識していませんでした。七十七歳語呂合わせは、「成るか成らぬかやるまでよ」と造りましたが、成らぬでした。それでも、熊谷や秩父宮のラグビー、神宮六大学野球、上野科学博物館等、楽しみもあります。まあ何はせずとも日は暮れます。就寝前「今日も一日ご苦労様でした。明日も宜しくお願ひします」と自分に言い、さて明日は？なんて心境です。あつ、そうそうここへきて知人が増えました。全部医者です。では、御免ください。

# 生々きがい探訪

## 会員からの近況報告

### 退職して十年

柴田 明雄

### 「諏訪渡り神事」

土屋 米男

退職し町会役員等の役を仰せ付かり微力ながら活動している。今回はその中で秩父夜祭の前夜(宵宮)に番場町会が中心となり執行されている「諏訪渡り神事」について紹介したいと思う。

ご存じのとおり秩父夜祭は俗に秩父神社の女神(妙見様)と武甲山の男神(龍神様)が年に一度の逢瀬を楽しむ祭りと言われている。実はこの祭りにもう一人の女神こそが「お諏訪様」である。お諏訪様のお社は以前番場町にあった魚菜市場の

敷地内に建てられている。

このお諏訪様は武甲山の男神の「本妻さん」といわれており、研究者によると秩父神社に妙見宮が合祀される前にお諏訪様は祀られていた。だからお諏訪様が「本妻さん」なのではないかという説もあるようだ。

年に一度お忍びで逢瀬をする祭りに本妻さんのお諏訪様が気を悪くなさらないように、祭礼の前日の夜にお諏訪様にお参りする「諏訪渡り神事」が執行されている。

十二月二日の午後七時、秩父神社宮司(藺田氏)宅前より高張を先頭に神職、番場町役員・関係者、市場関係者、屋台町会代

表者などが参列し番場町

にある諏訪本宮に向かって太鼓、笛を奉奏しながら列を作って進行し祭場に於いて祭典が厳肅に斎行されている。この行事は地味ではあるが秩父夜祭の一連の神事であるので、ご覧になっていない方がおりましたら是非一度ご覧いただきたいと思います。紙面をお借りし紹介させていただきます。



退職して十年、現職の頃は「広く浅く」と、様々な事象・人に関心がありました。近頃はいくつものものに絞られてきました。特に顕著なものが、読書の分野が限定されてきました。まず、趣味である溪流釣りでの「釣り場紹介」の類から、「釣りに関わる随筆集」が多くなりました。多くのヤマメやイワナを釣る事から、その里川の自然や、人々の暮らし、さらに地学、歴史などに関係する事に興味が移ってきました。インターネットサイトでそれらに関わる著書を探すと、実に多くのもので出版されていることに驚いています。

昨年の秋に、紅葉を観に奥只見湖へ行きました。あ

の釣りが大好きな小説家「開高健」氏が命名したチャーハン日本版ともいう山菜飯です。これは実に美味しかった。家に帰ってから「開高」氏の著書を十冊ほど買い求めのんびりと読んでいます。

「私の釣魚大全」「フィッシュ・オン」「悠々として急げ」そして「オーパ」などなど実に面白い!

また、歴史関係に興味があわいています。歴史と言っても民俗学です。歴史は入り口も出口もない迷路のような分野だと言われていますが、用心!用心!

このようにこの頃は「狭く、深く」知りたいことが増えてきました。物事に関心を持ち続け楽しい時間を過ごして行くには、健康な心と体がとても大切な事に改めて気づかされているこの頃です。

# 「元氣ジジイ」 を目指して

柴崎 了

退職してから早十年に成る。退職前から人間ドック等でよく言われていたのは、「元氣ジジイ」で居ること。つまり体力の現状維持だ。現役の頃はランニングや球技等取り組めば身体は鍛えられ充実感が得られた。しかし今、頭の中では身体を動かすことにゴーサインでも身体の方が追いついていかない。無茶をするとケガに結びつく。実践スポーツよりも観戦スポーツに移行してくる。そうは言っても何かできることをしたいもの。身の丈にあった運動で体力の現状維持目標に近づける活動は無いか。退職一年前からゴルフを始めたが、これが何とか継続できている。ゴルフは、緑の中を歩き、少し運動し

景色も眺め、会話しながらスコアを出す。面白いのはプレーしていくごとにゴルフの奥深さも分かってきて終わりがなく興味が絶えない。仲間との繋がりもできる。この延長に「ゴルフ旅」という一泊してゴルフ旅行を試みた。仲間も快く賛同し参加してくれた。最初に、昭和天皇もプレーしたという福島県の会津磐梯山を仰ぎ見る会津磐梯山カントリークラブ、次に山梨県の八ヶ岳高原での清里アーリーバードゴルフクラブ、八ヶ岳が目の前に迫り圧巻だった。そして、静岡県での「富士に向かつて打て」をテーマに朝霧カントリークラブと年に一度出かけ、旅行とゴルフを満喫した。

ボランテニア活動や畑仕事の合間を縫って体力現状維持とまではいえないが、「継続は力なり」のもと、がんばっている。

# 秩父札所巡り

黒澤 博

退職以来二度目の札所巡りに出かけた。今回は徒歩を中心に江戸巡礼古道を歩き、繋ぎにバスと電車を利用してみた。

一日目、一〜五番

一番で安全祈願。続く二番道は今は無き「野活」勤務時の近道で懐かしい。大棚古道で元PTA会長さんと二十年振りに再会。思い出話に花が咲く。

二日目、六〜十一番

横瀬古道の一部は高校時代の自転車通学路。部活帰りけんむし坂の上りがきつかった。八番コミネカエデの枝振りが見事。三日目、十二〜十九番  
家から近いが滅多にこない市内街中の札所。改めて参拝できて良かった。四日目、二十〜二十五番  
長尾根、久那みちはいかに江戸古道の面影を

残す。途中迷い、竹藪に分け入ると足元に獣の糞。念仏板で無事を唱えた。五日目、二十六〜三十番

橋立、秩父往還古道へ。

二十六番奥の院の三百段の石段は急で息が切れる。この日歩数は優に三万五千歩を超え、足がつる。六日目三十一〜三十三番

大日峠道は古の雰囲気を残し、昔人の巡礼が偲ばれる。道標を見落とし違う山道に入る寸前、女性が見れ道を教えてくれた。観音様の化身か？

さて、再びの巡礼巡り

もあと一寺。振り返ると山あり谷ありの巡礼道は自分自身にも重なりおもしろい。徒歩だからこその人との出会いや、景色の美しさ、札所の奥深さに触れることができた。間もなく結願だが、何となく一抹の寂しさも覚える。札立て峠越えの三十四番にいつ出かけようかと思案中である。

# 『不幸な人生』と『不運な人生』

新井 和彦

過日、新聞のコラムに、五十代の女性末期癌患者が「自分が若くして病になったことを哀れんで涙してくる人がいたが、癌になったことは『不運』でこそあったが、私の人生は『不幸』では無かった。」と述べていたという一節が目に残りました。

私はそれを読んで、先輩のK先生のご夫妻の事が脳裏に浮かんだのです。とても明るくおおらかに健康そのものの奥様が、ご病気で亡くなられたという訃報は、にわかには信じ難いものでした。ご葬儀でのK先生は、当然の事ですが、憔悴しきつていらつしやいました。

しかし、その後、新聞の川柳投稿欄に、奥様の事を詠まれた句を何度も拝見する事があり、とて

も心を揺り動かされたのです。病床にあっても、笑顔と感謝の言葉を口にしていた妻の姿、今の自分があるのも妻がいればこそ等々、奥様への想いが溢れる句ばかりでした。

しかも、それらは決して過去を振り返るだけではなく、奥様の存在を、今まで以上に身近に感じ、共に生きて行こうとする決意だと感じました。これだけ愛されていた奥様の人生が『不幸』であるはずは無く、本当に『幸せ』だったと思います。私自信、いつ『不運』に遭遇するか分かりません。ただ、子ども達と関われた教職という素晴らしい仕事に従事できた事を、どのような事態になっても「幸せな人生だった。」と言いきれるよう、家族を含め周囲の人々に感謝しつつ自己を見つめ毎日を充実させて生きて行こうと思っております。

## ベトナム そして小豆島

白石 守

十二月三十一日、教え子のチャムさんの結婚式であった。前日、ドンホイ市のチャムさんの家に着き、両家の顔合わせ、食事会に参加した。チャムさんは都内の日本語学校での教え子で、縁があって家族で交流してきた。三十一日は午前中に結婚式、夕方から披露宴。三百人の盛大な披露宴であった。用意したお祝いのメッセージはここで伝えた。お酒とおいしい食事とカラオケ。にぎやかで楽しい披露宴であった。日本語教師になって五年が経った。定年退職した一年目に日本語教師養成講座に通い、資格を取った。二年目には大学院に通い、「小・中学校における外国人子女教育」について学びながら、同時に日

本語教師をスタートさせた。日本語教師は定年がなく、やり甲斐のある仕事である。私は、留学生たちが母国に帰って「日本に行つて良かった」と思つてほしいと願いつつ教えている。日本語学校は年四学期制で、学期間に休暇がある。その休暇を利用して取材活動をし、二つの冊子に「文学紀行、人生、人」をテーマにエッセイを書かせていただいている。平成二十八年には父の青春を探しに小豆島へ行き、父が出征前にお付き合いしていた女性に会い、思い出を聞くことができた。戦争で思いが叶わなかった父とその方のことをエッセイにまとめたが、その方に会いに全部で五回、小豆島に足を運んだ。今後は海外で教えることも視野に入れながら、現在の仕事をできるだけ長く続けていきたいと考えている。

## 修行は続く

伊古田 孝志

多くの男性は私のような悩みはないと推察するので、あえて「私の場合は」と前置きしておきたい。六十六年の歳月を重ねたが、「家庭はゆつくり」と繰り返されている。つまり家庭は女性で支えられているということである。私は仕事で外に出ていたが、妻も同様であった、いや現在も出ている。しかし家のことは妻が回している。最近つくづく感じていることである。私は昨年から外での仕事は一切なくなつた。家庭菜園や山の下刈り、あぜ道の草刈り、梅や柿の収穫など家の仕事もいろいろあるが、どれをとつても満足にはできない。毎日が勉強であるが、あまり成果は上がっていない。たとえば、梅や柿だ

が、冬に剪定、木の手入れ、春から草刈り、消毒収穫、保存など一年を通してやらなければならぬことが続く。しかし、経験のない私には難題ばかりである。現在は父が健在なので、父のやることを見よう見まねでやっているのが現状である。現在の課題は、収穫したものをどう処理するかである。梅は、カリカリ梅や梅干し、柿は直売へ出荷したり干し柿にした。大根は切り干しやたくわん漬けに。ゴマや大豆の収穫など、少しずつ農家らしいことを続けている。しかし、農作物をたくさん作っても家族や知人に食べてもらうくらいであるから、収穫できる時期を変えることも課題の一つとなっている。季節の変化や気候の変化を見極める力が試されているこの頃である。

## 令和元年 彩の国「教育の日」協賛 現職・退職校長秩父地区教育推進協議会報告

広報委員 今井 進

十月十七日(木)、皆野町文化会館において、三名の来賓をお迎えし、現職校長31名、退職校長30名、秩父地区P連の会長、副会長の参加を得て盛大に開催された。

### 一 開会行事

高橋幸太郎退職校長会秩父支部長、新井孝彦秩父地区校長会長の主催者代表挨拶に続き、来賓の片桐雅之北部教育事務所長、豊田尚正皆野町教育委員会教育長、浅見勲県退職校長会副会長からご挨拶をいただいた。

### 二 研究発表

発表一「多くの方々に助けてもらった私の天体人生」

退職校長会 秩父班

濱中 崇史会員

高校時代から現在に至るまで、天体観測を通じ

ての様々な人々との出会いと、星に魅せられた半生を紹介していただいた。

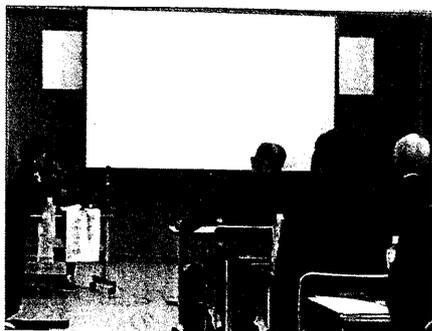
高校一年生のとき、イケヤセキ彗星を撮影した写真が新聞に掲載された。それを機に生地部に天文班をつくり、天文に熱中した高校時代を過ごした。

教員となって勤務した両神小学校時代には、児童と一緒にハレー彗星の観測会を実施したり、サイパンに観察旅行に出かけたりしたことを、たくさんさんの資料をもとにユーモアを交えて話された。

南小での教頭時代には、学校の簡易プラネタリウムを使って各学級で投影会を行った。また、校長として勤務した大田小学校では、しし座流星

群を児童に紹介したところ、夜中に流れ星を見た児童が多く、翌日は眠そうにしている子もいた。横瀬小学校では、天体観測を通じて保護者との人間関係が深まった。

最後に、これまで多くの人に支えられ、趣味を仕事に生かすことができたと結ばれた。先生は現在名栗げんきプラザに勤務し、多くの学校で天体出前講座を実施するなど活躍されている。



発表二「統合四年目小鹿野中学校の学校経営」  
小鹿野町立小鹿野中学校

吉岡 章校長

はじめに、地域の特性と教育力を生かした小鹿野ならではの教育活動を進めるため、町内の各所を歩き、目で見て地域を知ることから始めた。

学校づくりは、生徒・教職員の信頼関係を大切にし、一人一人のよいところを褒めて伸ばすように努めている。また、小中学校九年間を一貫した教育活動を推進している。町内小中学校共通の生活目標の設定や継続的、系統的なキャリア教育を進める夢シートの活用、小鹿野町独自の自学ノートの作成などに取り組み成果をあげている。

職員の負担軽減を図る取組としては、定期テストを見直し、一学期の間テストを廃止した。また、学校行事やPTA行事を精選し、心身ともにゆとりをもって職務遂行できる学校づくりに努めている。

また、生徒・職員が交わす「あいさつ」の有りが学校の状態を示すバロメーターと捉え、明るく爽やかなあいさつが交わされる学校づくりを進めている。

最後に、歴代85人の校長先生からのバトンを引き継ぎ、益々発展させていきたいと結ばれた。

### 三 研究協議

笠原幸夫会員から、濱中先生の星に魅せられた人生、多くの記録を残しておいたことや少年のようなワクワク感に感動したという感想があった。板倉邦弘吉田中学校長からは、統合後の素晴らしい学校経営を参考にし、自校の経営に生かしたいという感想があった。川田哲也地区P連会長からは、学校と家庭の役割を改めて考えるところにも、退職校長には地域のために力を貸して欲しいという感想をいただいた。

親睦旅行の報告  
 旅行委員  
 神山洋三

令和元年十月八日、信濃路の自然や歴史を楽しむために、会員二十四名が研修旅行に参加した。

バスは六時半に小鹿野町を出発し、途中で全員を乗せ、一路信州を目指した。寄居で小休止後、大島旅行委員長、高橋清風会長の挨拶を戴いた。しばし歓談後、用意された歌詞プリントで、「千曲川」や懐かしの歌を五曲ほど合唱した。ほどなくして、善光寺近隣の駐車場に到着した。

ここから各自希望地を選んで二手に分かれての見学、善光寺が十四名、長野県信濃美術館東山魅夷館が十名となった。見学時間は一時間を確認してから出発した。善光寺

は、無宗派で個人の墓地が一つもない特別なお寺であり、また七年ごとの御開帳の折に立てられる回向柱は高さ十メートル、太さ四十五センチ角で重さが十トンもあるのに驚かされた。山門掲額文字の「善」が牛に似せて書かれていることも知った。

参詣の最後は、全員でお戒壇巡りに歩を進めた。秘仏御本尊様の下はまさに真つ暗闇の世界であったが、社会科学見学の小学校の一行と一緒の入場だったので、子供たちのあがる歓声が妙に心地よかった。全員が「極楽の錠前」をぐつと握りしめ、秘仏のご本尊様と結縁できた。一方、リニユアアルしたばかりの白いモダンな記念館を訪ねた一行は、「緑響く」「光昏」「春雪」など、自然を青く、静かで、幻想的に描いた数々の作品に心癒された。見学時間は短いものの、充

実したひと時であった。合流後、バスを四十分ほど走らせてから、昼食をとった。メインが「信州そば」、さすがに本場のそばは旨い一同舌鼓を打って味わった。

次の目的地は須坂市の「豪商の館、田中本家博物館」である。「近世の正倉院、田中本家が語り伝えてきた日本文化の数々」と自ら謳うが如く、集めた調度品や生活用品が、三百年経った今も大切に保管されていた。この屋敷の庭の一角にて記念写真を撮った。三千坪もの敷地を二十の蔵で囲い込んだ当時の財力と、逞しく生きてきた町民の力を思い知らされた。

観光の最後は、長野市赤沼にある「千曲園」でリングゴの買い物をした。重い土産を積み込んだ車中でビンゴに一喜一憂しながら、秩父を目指した。親睦を深めた有意義

な研修旅行であった。だが、何度も横断し、その姿に見惚れた千曲川が堤防決壊し、赤沼も水没してしまった衝撃は計り知れない。心静かに、深い追悼の意を捧げるとともに、被災地の一日も早い復興を、ただただ祈るばかりである。



豪商の館 田中本家博物館

教育現場からの報告

人権教育推進協働校として

横瀬町立横瀬中学校校長 新井 清人

一 はじめに

本校は、全校生徒数二〇二名、特別支援学級二学級を含む計八学級の町唯一の中学校である。本校の教育目標「よく学び心を正し 全力尽くす」ことのできる生徒の育成を目指している。

横瀬町は平成二八年度から三年間にわたり、文科省及び県教委から人権教育総合推進地域事業の委託を受けた。本校も推進協力校として「互いに認め合い、支え合う、心豊かな生徒の育成」を研究主題として、人権教育の研究を進めた。この取組は以下の通りである。

二 研究の概要

小学校との連携を密にし、体験活動や話し合い活動、協働的な活動を通し

て、自尊心の心やコミュニケーション能力を向上させていく。

また教育・心理検査の結果等を分析し、生徒の実態を把握し、各教科等、教育活動全体に活用し、一人一人の人権を尊重し合う意識を高めることをねらいとした。

(1)授業での取組

①「わかる・できる授業」のスタンダードの活用

一人一人の自尊心や自己有用感、日々の授業で培われるので、本時のねらいとまとめを正対させ、一人一人の学びを保証するために活用した。

②UDの視点を取り入れた授業  
学力低位層や特別な配

慮を要する生徒に対して、UDの視点を取り入れた授業づくりを進めた。

③人権感覚育成プログラムの活用

日々の授業で、人権感覚育成プログラムを活用し、ダイヤモンドランキング等、様々なアクティビティを取り入れた授業実践を行い、人権感覚を高めた。

④「幸福学」の授業

本校の特色ある取組として、慶応大学大学院の前野教授による幸福学の授業を行い、生徒の自尊心や自己肯定感を醸成する取組の一つとして三年間実施した。



(2)特別活動での取組

①生徒善行表彰の実施

毎月、「学級のために力を貸し、学級を支えてくれた人」を各学級で投票により選出し、朝会で表彰した。

②「あなたのここが素敵です！」

毎月、クラスメイトの素敵なところをカードに書いて送り合う活動を実施した。

③NGワード撲滅キャンペーン

人権週間に合わせて、相手を傷つけるNGワードを言ったりNGな行動を行ったりしないように呼びかけをした。

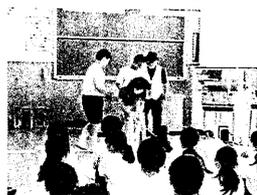
(3)地域等と連携した取組

①小・中あいさつ運動  
毎月小学校と連携し、生徒会や地域の方が校門付近に立ち「あいさつ運動」を実施した。

②人権教室の実施

人権擁護委員の方々の指導のもと、「人権を考えた」という寸劇の見学と、

班毎の話し合い活動を通して人権を大切に  
価値・態度について学んだ。



三 成果と課題

「人権感覚育成プログラム」を活用した授業実践が増えたり、地域と連携した人権教育を実践することができた。

今後も「自己尊重の感情」、「コミュニケーション能力」の醸成に向けて、引き続き人権教育を進めていく必要がある。

四 おわりに

人権に関する知的理解はできても、それが具体的な態度や行動に結びついていないことが、人権教育推進上の課題である。今後とも他者の傷みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性、意欲の育成を図っていき

# 生き生きライフ

## 挑戦する心

江田 七男

「貧乏暇なし」と良く言われるが、私の人生そのもの。毎日の生活の中で家にいることは少ない。何事にも挑戦する事を念頭に。

運動面ではゴルフやペタンク、大会での緊張感、は抜群、人との交流が何としても楽しい。

趣味では、快晴の日はカメラを持って撮影、関東一円名所旧跡踏破、少しでも素晴らしい作品を目指して、作品展には必ず応募。

パソコンは一日二時間は欠かせない。オークションの楽しみは別格。車、洗濯機、オーブン、耕運機、必要な物は何でも競り落とし。車は二台目、ハイブリット車が格安で

乗れる。パソコンでのゲームの楽しさは別格で誰にも迷惑をかけずに挑戦できる。トランプからマジシャン師範級と対戦、最近是对等に勝負ができる。本番では運が左右するので難しいかな。

最近では農作業に挑戦中。友人からの野菜の差し入れで意欲が湧き、作物は子育てと同じ、手を抜くと収穫の楽しみは無い。失敗の連続だがそれでも挑戦中。

「長生きの秘訣は」と問われたら何事にも挑戦すること。体、足、頭をフルに使うことが大切。年寄りだから家に閉じこもりテレビの番人になつたらおしまい。動ける間は様々なことに挑戦し続けて楽しい晩年を過ごすよう努力したい。

## 射即人生

石田 徳光

私は、昭和五十一年から小鹿野町弓道会に入り弓道を始めました。

初めの頃は当てることだけで喜んでいました。次第に続ける中で、射法八節と云う弓道修練の基準となり法則に徹して引くことが如何に大事なのか分かりました。

修練を続けていくと昇段試験があります。弓道は、一人で弓を引き、相手はいません。しかし練習では、仲間がいます。年齢は様々、男女もあり、その交流を通じて、弓のことから社会的なことで幅広く触れ合うことができます。互いに励まし合ひ教え合ひながら人間的にも豊かな交流となります。

昇段試験は、必ず受けなければならぬものではないです。健康を目的に頑張る人もいます。多くの弓道人は、昇段を

目指していると思います。私も昇段試験を時々受けませんが、時には、遠方に車で行くこともあり、運転に不安な時妻同伴もあります。ついでに観光も兼ねてです。何度か何度も受けて、やっと合格です。できる限り練習をしなければなりません。

弓道は技術だけでなく、三位一体と言つて身・心・弓の三者が一体となることを言っています。健康だけでなく、人生をより高く、豊かにすることです。昔から、弓道は精神修養と言われています。自分に負けずに頑張ること

は大変です。いつまで続けられるか分かりませんが、人生を学ぶことにも結びつくものと思ひ、今後も努力をし、続けて行きたいと思ひます。



## 編集後記

東京五輪・パラリンピックが開かれる今年、小学校では、新しい学習指導要領に基づく教育が始まります。社会の変化に対応できる子どもの育成を目指して、英語教育、ICT教育等の充実に取り組めます。今後の学校教育の動きには注目です。

ここで、嬉しいお知らせです。会員の鈴木秀太郎氏が、東京五輪聖火ランナーとして走られます。会員全員で喜びたいです。本会報に玉稿をお寄せいただきました皆さまに感謝を申し上げ、第六十八号をお届けします。

清風会 (第六十八号)  
発行 令和二年三月一日  
発行者 会長 高橋 幸太郎  
          秩父市吉田久長  
          八五十一  
          清風会事務局  
印刷所 秩父市黒谷一〇三六  
          (株)萩原印刷  
          ☎(0494)240426